

第4学年 社会科 学習指導案

天理市立福住小中学校 教諭 藤田桃子

1. 単元名 「わたしたちの住んでいる奈良県」 ～シカとともに生きる 奈良市～

2. 単元の目標

- ・奈良市と奈良公園のシカとの関りについて調べ、シカと共生するまちづくりの工夫について理解することができる。

(知識・技能)

- ・シカと人が共生する課題や観光資源、自然環境などにおけるメリットやデメリットについて考え、適切に表現することができる。

(思考・判断・表現)

- ・シカと共生するまちづくりについて、それに携わる人に目を向け、意欲的に調べたり考えたりし、自分たちは身近な生き物とどのように関わると良いのかを考えようとするすることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、奈良市のシカを取り上げることで、自分たちの住んでいる奈良県にも伝統や文化などの資源を保護・活用している地域があるということに気付くことができる。観光・自然資源両方のシカの姿を取り上げ、調べ学習をすることで、伝統や文化を守るために地域の人々がどのような課題を持ち、どのような工夫をしているのかについても学習することができ、伝統的な文化や環境保全には、様々な人のつながりが大切であるということに気付くことができる。

さらに、シカと共生することの課題や人々の工夫について友だちと意見交流することで、コミュニケーションスキル向上が期待できる。

また、自然豊かなまちに住む者として、伝統的な文化や環境保全のために自分たちには何ができるのか、今後の行動についても見直すきっかけとなる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、学習において、興味・関心のないことには消極的な姿勢がみられるが、興味・関心に一度火が付くと、発想やイメージを膨らませて、様々な場面や事象、課題に対して一人ひとりが自分のペースで積極的に取り組むことができる。しかし、友だちと話し合う活動では、話し合いが円滑に進まないことが多い。自分の意見を発信することが苦手な児童が多く、特定の児童の意見のみとなってしまうことがある。そのため、本単元において身近なシカとの共生について取り上げることで、自分の考えを持ち自分の意見を発信できる児童を増やせる機会になると考えている。

また、本学級の児童は、第3学年の社会科や総合的な学習の時間（校区探検や生き物調査など）では、自分たちの住んでいる福住の良さや素晴らしさを発見し、調べる活動を重ね、まとめていく中で、社会との関わりや環境とのつながりについても考えることができた。そんな児童たちにとって、「シカとの共生」を取り上げることは、自分たちの住む奈良県についてより深く考えるきっかけとなると考えた。

(3) 指導観

本単元の指導の導入に当たっては、シカをデザインした奈良県内の様々なマスコットキャラクターやロゴマークを提示することで、奈良県や奈良市とシカとの関わりの深さに目を向けさせる。また、シカを題材にした落語『鹿政談』を聞かせることで、シカが古くから大事にされてきたと

いうことに気付かせたい。調べる段階では、古くからシカが大事にされており、現在は天然記念物として保護され、「シカの角切り」「シカ寄せ」などにより多くの観光客を楽しませていることに気づかせたい。また、観光資源としてだけではなく、自然資源としてのシカの姿にも気づかせたい。奈良公園でシカが芝を食べ続けることで、芝刈りなしでも美しい景観を保つことができていること、シカのフンが芝の栄養になることなどである。一方で、奈良公園の近くにある春日山原始林では、シカが草木枝を食べることで外来種の木のみが残ってしまうというデメリットがあるということにも目を向けさせたい。

さらに、人に飼われているのではなく野生のシカであることにも気付かせ、そのうえで、共生する際の課題に目を向けさせたい。例えば、人が出すごみを食べることで病気になったり、交通事故に遭ったりするシカが毎年多くいること、逆にシカが農家の作物を食べてしまうシカ害に悩む人がいることなどである。以上のような課題や、奈良の人々はどのような工夫をしているのかを踏まえ、奈良のシンボルとしてのシカとどのように共生していくべきか、観光客として奈良を訪れた人々はどのような行動が良いのかを考えさせたい。

最後には、身近な自然を守るために自分たちには何ができるのか、生き物たちとどう関わらべきかを考えさせたい。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

相互性…奈良公園や奈良のシカは、他地域・他国とのつながりをもたらす、奈良県にとって重要な観光資源である。一方で、人からシカ、シカから人への被害をもたらされ人もシカも安心・安全に過ごせる環境ではなくなる可能性がある。

責任性…シカと人がより良く共生するため、身近な自然を守るために自分たちには何ができるか考え、責任を持って行動する必要があるということ。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

・多面的・総合的に考える力(システムズ・シンキング)

教科書で取り上げられている内容や調べ学習により分かった課題などだけでなく、シカと共生する奈良県民としてどのような課題があるかを考え、自分たちにはどのような考えが大切か、どのようなことができるかなど、様々な角度から考えを深める。

・コミュニケーションを行う力

シカと共生するまちづくりについて、意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。

・つながりを尊重する態度

伝統的な文化や環境保全には、様々な人のつながりが大切だということに気付き、尊重しようとする。

○本学習で変容を促すESDの価値観

・自然環境、生態系の保全を重視する。

限られた資源や環境を大切に守り、自分たちの行動を考えなければならない。

・人権・文化を尊重する。

伝統的な文化を大切にしながらも、人々が安心して過ごせるまちづくりを考えなければならない。

○達成が期待されるSDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくり(持続可能な都市・まちづくり)
- 1 5 生態系の保護(陸上資源)

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>1 奈良市と奈良公園のシカとの歴史について調べている。</p> <p>2 シカと共生するまちのメリットやデメリットについて調べている。</p> <p>3 シカと共生するまちづくりの工夫について理解している。</p>	<p>1 観光資源、自然環境などにおけるシカと人が共生するメリットについて考えている。</p> <p>2 観光資源、自然環境などにおけるシカと人が共生するデメリットについて考えている。</p> <p>3 シカと人が共生する課題について考えている。</p> <p>4 シカと人との共生について調べたことや考えたことを表現している。</p>	<p>1 シカと共生するまちの様子について意欲的に調べたり考えたりしようとしている。</p> <p>2 シカと共生するまちづくりについて、それに携わる人に目を向け、意欲的に調べようとしている。</p> <p>3 シカと共生するためのより良い方法について、学習したことをもとに友だちと意見交流し、考えようとしている。</p> <p>4 身近な生き物とどのように関わると良いのか、友達と意見交流し、考えようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全9時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○奈良県とシカとのつながりを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良のマスコットキャラクター ・古くから大切にされてきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・シカがデザインされた奈良県内のマスコットキャラクターやロゴマークを見たり、落語『鹿政談』を見たりすることから、シカと奈良とのつながりの深さに気付かせる。 	<p>△ア① （知・技）</p>
2	<p>○シカと奈良の歴史について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカは神様の使いとされていた。 ・現在は、天然記念物に指定されている。 <p>○シカがいることでどのようなメリット・デメリットがあるか調べたり考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良の観光を支えている。 ・美しい景観を維持する役目を果たしている。 ・春日山原始林では、外来種の木だけが残る。 ・農作物が食べられてしまう。 <p>○シカと人が共生する課題とその原因について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題 ・交通事故 <p>○シカと人が共生するために人々がどのような工夫をしているか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛護団体 ・奈良市の人々のシカへの関わり方 <p>○シカと人が共生していくためのより良い方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客の意識や行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・シカと奈良との間にどのような関係があるのかに着目するよう声掛けを行う。 ・ペットではなく、野生のシカであるということを意識させる。 ・自然資源・観光資源の両方について考えるよう声掛けを行う。 ・奈良公園の写真を提示し、考える際にイメージしやすくする。 ・課題に対して、なぜそのような課題が生まれるのかについて考えられるように、現在の暮らしの特徴について考えるよう助言する。 ・昔と今を比べ、どのような生活の違いがあるかを考えたうえで、現在の工夫を調べるよう促す。 ・シカと人、両方にとってのより良い暮らしについて考えさせる。 	<p>△ア① （知・技）</p> <p>△ア② （知・技）</p> <p>△イ①② （思判表）</p> <p>△ウ① （主体的）</p> <p>△イ③ （思判表）</p> <p>△ア③ （知・技）</p> <p>△ウ② （主体的）</p> <p>△イ④ （思判表）</p> <p>△ウ③ （主体的）</p>
3	<p>○自分たちは身近な生き物とどう関わるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良のシカについて ・自分たちの住むまちの生き物について 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良の人々と観光客の行動を比べることで、自分たちは今後どのように行動するべきかを考えやすくする。 	<p>△ウ④ （主体的）</p>